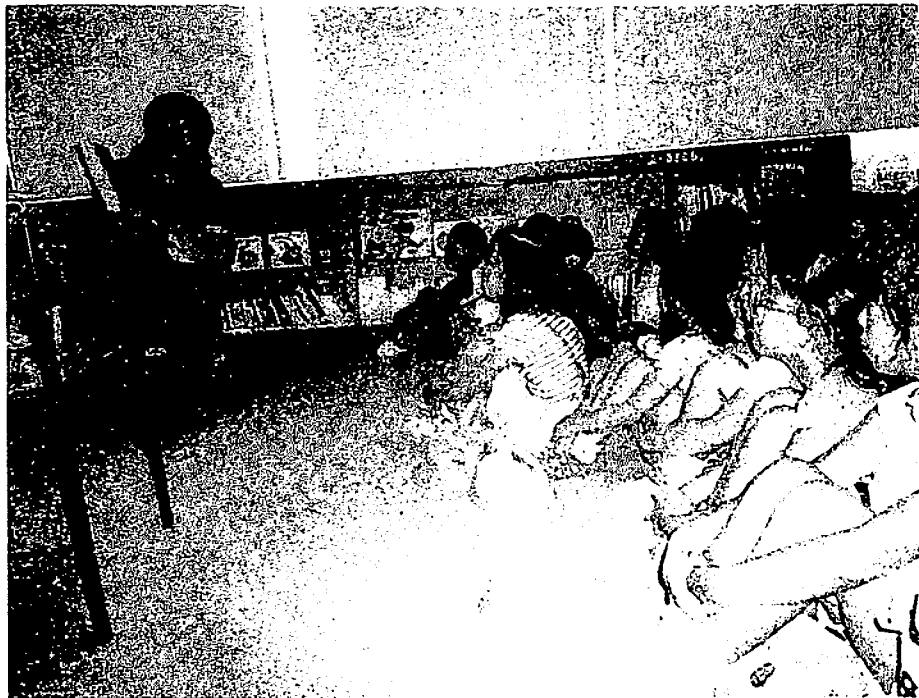


研究主題

学校図書館と市立図書館との連携 ～教科指導の中での連携～



1 研究主題

学校図書館と市立図書館との連携 ～教科指導の中での連携～

2 主題設定の理由

八街市（四部会）では、今までも市立図書館と協働で様々な取り組みを行ってきた。平成27年度からは、「学校図書館と市立図書館との連携～本でつなぐ、人・学校・地域～」と主題を設定して様々な取り組みをしてきた。

具体的な取り組みとしては、

- | | | |
|---------------------|-----------------|----------|
| ・読書ゆうびん「うちどくノート」 | ・読み聞かせ会 | ・かみしばい劇場 |
| ・ジュニア司書と学校図書委員との交流会 | ・ボランティアに対する実務講座 | |

などを行ってきた。

しかし、どの活動も図書委員会の子どもたちやボランティアとの交流で、広く全体での交流とはならなかった。

そこで、今年度は、より広く多くの子どもたちの学びの場での交流を図りたいとの思いから、教科指導の中で連携できないかと考えた。

3 仮説

市立図書館と学校図書館が連携することによって、学校図書館の環境や運営が充実し、市立図書館においても、子どもたちの読書活動がより活発になるであろう。

【実践の見通し①】

- ・市立図書館と学校図書館が連携することによって、学校図書館担当教員が、より専門的な知識をもって学校図書館運営ができるであろう。

【実践の見通し②】

- ・市立図書館と学校図書館が連携することによって、子どもたちが、より質の高い読書活動ができるであろう。

【実践の見通し③】

- ・市立図書館と学校図書館が連携することによって、地域の読書活動も活性化するであろう。

【実践の見通し④】

- ・市立図書館と学校図書館が教科指導の中で連携することによって、より多くの子どもたちが図書館を利用するよさに気づき、図書館利用の意識が育つであろう。

4 実践

(実住小学校)

①第1学年 国語科「としょかんへいこう」(実践の見通し② ③ ④)

(1) 内容とねらい

図書館の基本的な利用方法を知り、興味のある本を探したり、紹介し合ったりすることができる。

(2) 単元の学習過程(3時間扱い)

次	学習内容と活動	支援(◇)・評価(◎)	市立図書館活用
第一次 (二時間)	○市立図書館について知っていることを話し合う。 ○市立図書館に行き、市立図書館の働きや利用の仕方について話を聞く。	◇教科書の挿絵と実際の市立図書館を比べながら、市立図書館の使い方を理解させる。 ◇公共の施設で周りの人に迷惑がかからないように気をつけさせる。 ◎好きな本を見つけて、読書しようとする事ができる。 (関心・意欲・態度)	○実際に市立図書館へ行って、本を探したり、読んだり、借りたりする。 ○市立図書館司書から市立図書館の基本的な利用方法を聞く。また、本の紹介を聞いたり読み聞かせを聞いたりする。 ○保護者にも参加を呼びかけ、市立図書館利用の意識をもってもらうようにする。
第二次 (一時間)	○読んだ本の中から気に入った1冊を選び、紹介し合う。	◇紹介をした本を交換して読ませ、質問をしたり答えたりさせる。 ◎読んだ本のおもしろかったところを友達に話したり、カードに書いたりすることができる。 (読むこと)	

(3) 活動の様子(次ページ)

(4) 成果と課題

- 子どもたちは普段、学校図書館を利用している。今回、市立図書館を利用することにより、その違いに気づくことができた。
- 毎年「巡回おはなし会」は学校で行われている。今回、市立図書館を利用したことでいつもと違う雰囲気でおはなしを聞くことができた。また、休日に市立図書館で行われている「おはなし会」に興味を示した子どもがいた。
- 子どもたちが市立図書館に興味をもち、「夏休みに図書館へ行ってみよう。」という声があった。
- 市立図書館見学に保護者も参加してもらった。そのことで、保護者の「市立図書館利用」の意識も高めることができた。
- 1年生のこどもたちが実際に市立図書館を利用するかどうかは保護者の意識によるところが多い。その意味では、今回参加できなかった保護者へどう啓発していけばよいか課題が残る。

おはなし会の実施



ろうそくの灯りをともすところ

☆ろうそくに灯りをともして、おはなし会のはじまり。学級とは違う雰囲気にくわく。



ろうそくを消す様子

☆お誕生月の人灯りを消しておはなし会はおしまい。



おはなしを聞く子ども様子

☆おはなしにみんな集中。

フロアに場所をうつしてのおはなし



市立図書館で本の紹介

☆1年生におすすめの本の紹介。



本の借り方

☆図書カードを使って、本の借り方を紹介。

- 学校図書館と市立図書館の違いに気づくことができた。
- 市立図書館に興味をもつことができた。

(実住小学校)

②第4学年 国語科「図書館へ行こう～分類をもとに本を見つけよう～」

(実践の見通し① ② ④)

(1) 内容とねらい

市立図書館へ行き、「日本十進分類法」について知り、それを利用して本を探して読んだり、図書館の分類の仕方を確かめたりすることができる。

(2) 単元の学習過程(3時間扱い)

次	学習内容と活動	支援(◇)・評価(◎)	市立図書館活用
第一次 (二時間)	○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 ○書架の本が、「日本十進分類法」による「分類記号」や図書館による分類の仕方と並んでいることを知り、それをもとに本を探して読む。	◇日常生活の中から例を挙げ、「分類」すると便利であることに気づかせておく。 ◎「日本十進分類法」による本の分類の仕方に関心をもつことができる。 (関心・意欲・態度)	○市立図書館司書の話をして、「日本十進分類法」について知る。 ○「分類番号」をもとに書架に並んでいることを調べる。
第二次 (一時間)	○「分類記号」や「図書記号」などをもとに、読みたい本を探して読む。	◎「分類記号」や「図書記号」を手がかりに、自分の読みたい本を探して読むことができる。 (読むこと)	○学校図書館と市立図書館の配架の違いや工夫を比べる。

(3) 活動の様子(次ページ)

(4) 成果と課題

- 教科指導での連携だったので、学年で取り組んだ。そのため、多くの教員が市立図書館に足を運ぶことになり、市立図書館との連携に興味をもつ機会となった。
- 「日本十進分類法」の話を図書の専門家である市立図書館司書から聞くことができたので、専門的な話をわかりやすく聞くことができた。
- 市立図書館の見学ができたので、学校図書館との違いを調べることができた。
- 本を探す活動では、ゲーム的な要素を取り入れるなど子どもたちが楽しんで取り組める工夫をすればよかった。
- 最近の子どもたちは調べる活動＝インターネット検索で何でも手軽に調べることができると思いがちである。図書資料を有効に活用して調べることも身につけさせたいので、学習活動の中で積極的に図書館を利用していきたい。

(3) 活動の様子



市立図書館のフロアの様子

☆市立図書館の本は、どのように並べられているのだろうか。



☆図書ラベルについての説明。
学校のラベルとのちがいは？



☆具体的な数字を挙げての説明。



フロアでも、実際に本を手に説明



・分類したら本が探しやすかった。

子ども達自ら書架を確認

- 「日本十進分類法」について、くわしく知ることができた。とてもわかりやすかった。
- 市立図書館の様子がわかった。学校図書館の様子も調べてみたいと思った。

(朝陽小学校)

③第2学年 国語科「どうぶつ絵本いっぱい～くりかえしのあるお話を作ろう～」

(実践の見通し② ③ ④)

(1) 内容とねらい

本単元は、「きつねのおきゃくさま」の繰り返し出てくる言葉に気をつけて読み、繰り返しのあるお話を作ることをねらいとした。学習にあたっては、「きつねのおきゃくさま」の読み取りと並行して、ブックリストにある繰り返しのあるお話の絵本を読み、想像を膨らませるようにした。

(2) 単元の学習過程(15時間扱い)

次	学習内容と活動	支援(◇)・評価(◎)	市立図書館活用
第一次 (二時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○きつねが出てくるお話の絵本を読み聞かせ、自分で考えたお話を作るというゴールのイメージをもつ。 ○全体を通読し、お話のおもしろかったところを中心に感想を述べ合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇読み聞かせを通して、学習への意欲をもたせる。 ◎読み聞かせや、ブックリストをきっかけに、繰り返しのあるお話の多さやおもしろさに気づき、興味をもつことができる。(関心・意欲・態度) 	<ul style="list-style-type: none"> ○市立図書館の司書の協力を得て、くりかえしのあるお話の絵本のブックリストを作成してもらい、平行読書ができるようにする。
常時	<ul style="list-style-type: none"> ○朝読書や学習の時間等を利用して、きつねが出てくるお話やくりかえしのあるお話の絵本を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇多くのお話の絵本を読ませることで、自分が作るお話のイメージをふくらませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ブックリストの本を使って教室に「キツネが出てくる絵本コーナー」、「くりかえしのある絵本コーナー」を作る。
第二次 (八時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○繰り返しのあるところを意識しながら、教材文の「きつねのおきゃくさま」を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇3回の繰り返しがある部分をおさえながら、きつねの気持ちの変化を読み取らせる。 ◎文章中の様子を表す言葉に気をつけて、登場人物の様子や気持ちを考えながら読むことができる。(読むこと) 	
第三次 (五時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○繰り返しのあるお話の絵本を読み聞かせする。 ○自分の好きな動物を主人公にして、繰り返しのあるお話を作る。 ○完成した本を友達と読み合い、感想を伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇主人公の性格やできごとを考え、ワークシートにメモをさせる。 ◎どのような動物がどのような行動を繰り返したかを、文章に書くことができる。(ワークシート・書くこと) 	<ul style="list-style-type: none"> ○完成した本を市立図書館に置いてもらい、地域の人にも紹介する。

(3) 活動の様子(次ページ)

(4) 成果と課題

- 教室に絵本のコーナーを設け、繰り返しのあるお話の絵本やきつねが出てくるお話の絵本を読むことで、自分の書きたいお話のイメージ作りができた。
- 読んでもらう相手がいることで、内容を考えたり、表現を工夫したりする意欲が見られた。
- 市立図書館に完成した本を置いてもらうことで、地域の人にも学校での読書活動を知ってもらうきっかけになった。
- お話作りの活動で教師は児童一人一人に対応していくことになるので、時間がかかってしまう。
- 読んだ絵本をうまく活用できない児童への手立てはさらに考える必要がある。

(3) 活動の様子

☆授業の導入で、きつねが出てくるお話の絵本を読み聞かせ、自分で考えたお話を作るというゴールのイメージをもたせた。



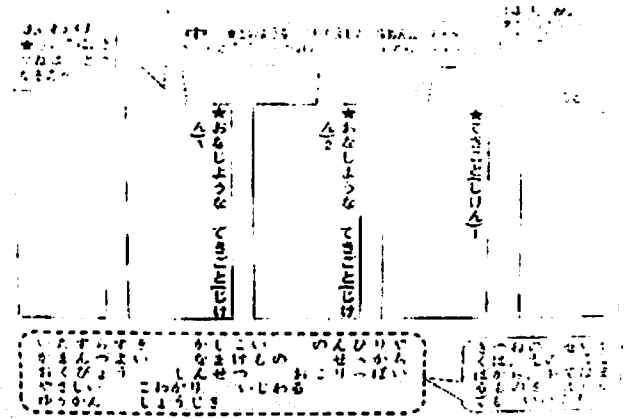
☆市立図書館でくりかえしのある絵本のブックリストを作成してもらい、朝読書や学習の時間等で平行読書させた。



きつねの出てくる本

くりかえしのある本

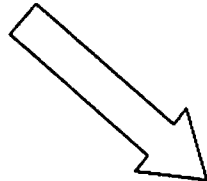
☆ワークシートを活用し、主人公の性格やできごとを考えさせた。(このときに主人公はきつねだけじゃなくてもいいことにした。)



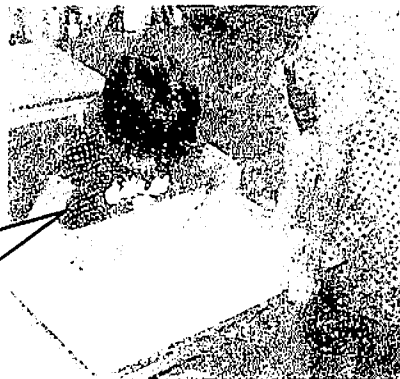
ワークシートをもとに話を書いているところ

ワークシート

☆並行読書の本を参考にしたり、ワークシートのメモを活用したりしながら、くりかえしのあるお話を作っていた。

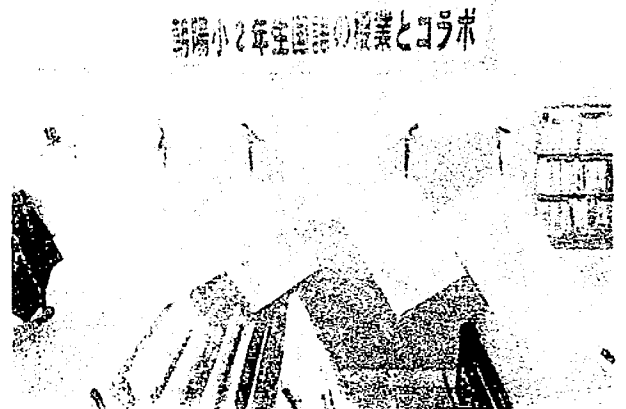


☆完成した本を友だちにも読んでもらい感想を書いてもらうようにした。



友だちとの交流

完成した本は、製本をして市立図書館に置いてもらい地域の人にも紹介をした。



市立図書館へ展示

5 まとめ

以前から八街市立図書館と学校図書館は連携してさまざまな取り組みを行ってきた。

しかし、それは学校図書館担当者など限られた教職員との間のことであった。今回、教科指導というかたちで取り組んだが、今まであまり市立図書館を利用することがなかった（利用しようという思いがなかった？）教員も図書館司書と一緒に授業に取り組んだ。そこで、図書館司書の専門性に触れることで、「図書館司書の専門性っていいな。これからも一緒に活動してみよう。」という思いを持つようになった。

子どもたちにおいても、いつも使っている学校図書館とは違って、市立図書館は資料が豊富で、新しい資料も多くあること、常時、司書という専門家がいて対応してくれることなど頼もしさのようなものを感じることができ、市立図書館の利用意識も高まったのではないと思われる。さらに、慣れ親しんでいて、限られた仲間だけが使う学校図書館ではなく、公共の施設である市立図書館を利用することで、子どもたちに公共のマナーを身につける実践の場にもなったと思われる。

また、いつもと同じ大人（先生）の話聞くだけではなく、専門家の司書の話聞くことで、いろいろな職業の人がいることに気づく機会ともなった。これは、キャリア教育の観点からみても意味のあることではないと思われる。

市立図書館の立場からは、まず、「図書館離れ」してしまう子どもたちに市立図書館に足を運んでもらい、親しみを持ってもらうことに大きな意味がある。これから先、子どもたちが、生涯学習、余暇の過ごし方を考えるにあたって、子どもたちの中に「図書館利用」ということが意識できるようにするためには、学齢期の頃から市立図書館への親しみを持つことが必要であると思われる。

また、「市立図書館に何が求められているのか」という現場のニーズに応えるためには、学校から依頼があって気づけるということであった。今後も、学校側から大いに情報発信していきたい。

今回の実践は、学区に市立図書館があり、徒歩ですぐに行ける学校とそうでない学校の実践発表となった。近くの学校は、授業時間での利用はしやすいが、反面、移動図書館のルートから外れていて、市立図書館の利用が個人の判断に任せられている。市立図書館から離れた学校では、なかなか市立図書館に足を運ぶことはできないが、2週間に1度の移動図書館をととても楽しみにして利用する子どもたちが多い。双方、それぞれの利点や問題点があるのでそれをよく整理し、地域格差を無くしていけるような手立てを今後、考えていく必要があると思われる。

図書館には、読書センターとしての機能と学習情報センターとしての機能の両面がある。市立図書館が学習情報センターとしての機能を高めていくためには、教育の専門家である私たち教職員が図書専門家である市立図書館司書と連携していくことが大切である。そして図書館の資料が有効活用され、利用者増につながり、しいては子どもたちの自己教育力の育成につながればと思う。そういう意味でも本研究主題における「学校図書館と市立図書館との連携」はたいへん意義深いものである。今後も学校と市立図書館と「協働」で取り組んでいきたい。

図書館活用実践集

「楽しく学び、心を耕す学習を目指して」

～子どもと本をつなぐ授業づくり～



一人で楽しんで読む子

平成29年8月17日

白井市立大山口小学校

大山口小学校 研究の概要

研究の全体構想

学校教育目標

自ら学び、豊かな心を持ち、
たくましく生きる子どもの育成

<目指す児童像>

- 進んで学ぶ子 (かしこく)
- 思いやりのある子 (やさしく)
- 最後までやり通す子 (たくましく)

<目指す学校像>

- 安心・安全な学校
- 地域から信頼される学校
- 活気ある学校
- 楽しい学校

研究主題

楽しく学び、心を耕す学習のあり方
～子どもと本をつなぐ授業づくり～

日常的な暮らし

- 今月の詩の音読
- 感想や手紙の交換
- 読書時間の確保
- 読み聞かせ (担任・指導員等)
- 本の紹介コーナー
- 集会でのスピーチ
- 作文掲示
- 他教科の言語活動との関連

授業改善の視点

- 「単元計画の工夫」
- 文章の姿
- つけたい力を明確に
- 単元のゴールを示す
- 読書につながる
単元計画
- 「学習活動の工夫」
- つけたい力に
ぴったりの言語活動
- 評価につながる活動
- 「読書活動の工夫」
- 学びに合う読書活動
- 心を育てる読書
- 自ら本を手にとる子

自分にレッツトライ!

- 大小チャレンジに
レッツトライ!
- 創作作品
(言語活動の成果物)
にレッツトライ!
- 読書のあしあとに
レッツトライ!
- 積極的な図書館活用に
レッツトライ!

図書館教育

各教科の指導過程の中への明確な位置づけ

- 並行読書 ●推薦読書 ●指定読書 ●必読書 ●愛読書

MY BOOK の取り組み

読書に
チャレンジ!
全校 7万冊
個人 百冊

基盤となる力

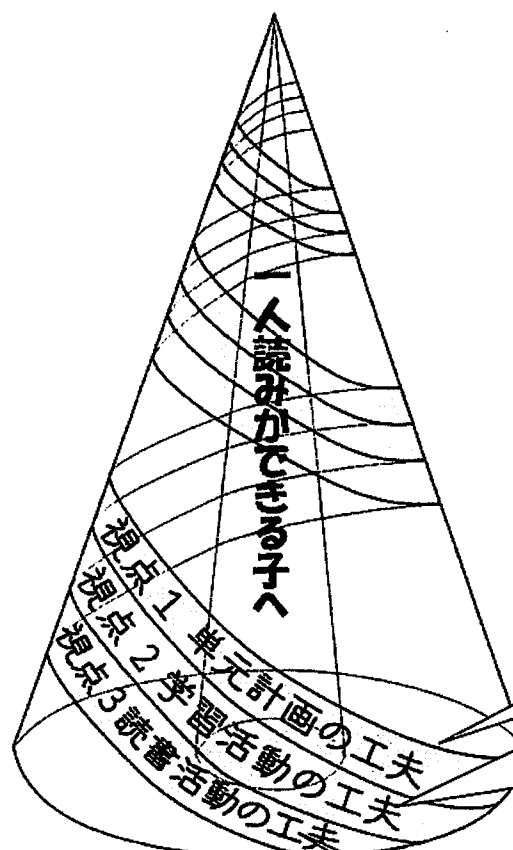
*「国語の経験」「国語の知識」「教養・価値観・感性」

*成長過程で経験している言葉の力

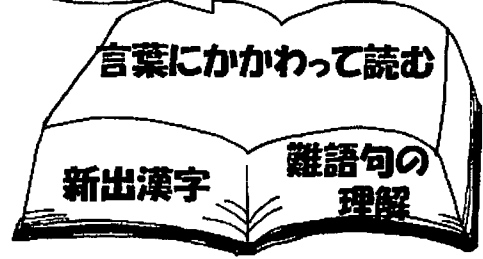
楽しく学び、心を耕す学習のあり方 ～子どもと本をつなぐ授業づくり～

<目指す子ども像>

一人で楽しんで読む子



読書の日常化
おすすめの本
ブックリスト



読解とは・・・

受信・思考・発信の過程を含める。

受信

文章や資料の中の事実を切り取り、言語化・図式化する「情報の取り出し」を行う。

思考

書かれた情報から推論・比較して意味を理解する「テキストの解釈」、書かれた情報を自らの知識や経験と比べて理解・評価する「熟考・評価」を含む。

発信

言語だけでなく、様々な言語活動を通して表現する。

<授業づくりの視点>

視点1 ●●●● 単元計画の工夫

- 「文章の姿」をとらえることで、文章を丸ごと読む。
- つけたい力を明確にする。
- 6年間を見通した系統性を意識する。
- ゴールを示し、単元の見通しを持たせる。
- 読書を国語科の指導過程に位置づける。

視点2 ●●●● 学習活動の工夫

- 登場人物の気持ちを吹き出しに書く。
- 動作化する。
- 調べたことで図鑑を作る。
- 「なりきり日記」で内言を外言化する。
- 自分の考えを新聞に投稿する。
- 紙芝居にして伝える。
- 学習用語を取り入れた授業

視点3 ●●●● 読書活動の工夫

- 並行読書を軸に、学習と読書の関わりを深めていく。
- 発達段階や学習内容に応じて、様々な読書の仕方アプローチする。
消費的読書（主に下学年）
生産的読書（主に上学年）
必読書の設定 など

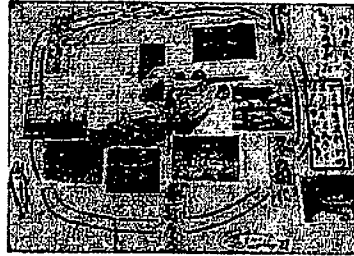
目指す子ども像にせまるために

○子どもと授業をつなぐ

☆授業づくりの視点1

文章の姿を捉える学習を通して、文章全体をおおまかにつかむ。

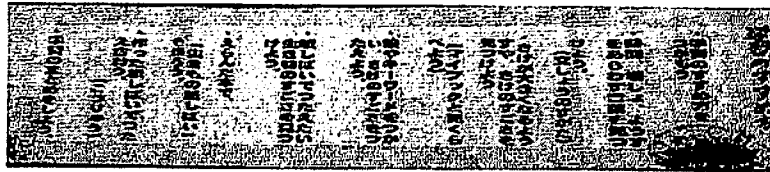
文章の姿：子どもたちに読ませたいキーワード・キーセンテンスだけを構造的に表したもの



☆授業づくりの視点2

学習用語の活用

学習計画の掲示（ゴールを明確にする）



☆授業づくりの視点3

多様な読書経験

並行読書 愛読書

必読書 指定読書

（授業に読書活動を意図的に取り入れる）



○子どもと学校図書館をつなぐ

本があふれる環境 読み聞かせ

テーマごとの展示 新書の紹介

（読書活動推進補助教員と教師の連携）



読書活動推進補助教員：白井市内の小・中学校に各校に1名配置されている。学校図書館の環境を整え、図書の新書の紹介、読み聞かせや授業を通して子どもたちと本をつなぐ役割を担っている。



○子どもと人をつなぐ

他学年の交流

市立図書館の方との交流

教師による読み聞かせ

保護者との関わり



一人で楽しんで読む子

図書館活用の実践

大山口小学校 1年 斉藤 裕美

教科 (国)・算・社・理・生・図・音・体・家・外・道・総・特活・生活単元

単元名 お話レストランをひらこう
学習材 「としょかんへいこう」

つたいか

○興味ある本を探し、その本の良さを伝え合うことで、本の楽しさに気づき、読書しようとする力。

学習活動の工夫

- 自分の考えや作品を読んで感じたことを発表原稿にまとめることで、わかりやすく伝えられるようにするとともに、自信をもって発表できるようにする。
- レストランを開くということで、相手意識をもたせる。



子どもと本との関わり

- 詩、昔話、シリーズものの話など各教室に、そのテーマの本のコーナーを開設する。
- 補助教員や担任が開店するレストランに合わせた読み物を紹介し、そのジャンルに関心をもてるようにする。

<本時の展開>

☆：読書活動推進補助教員の活用

補助教員：読書活動推進補助教員

指導計画	☆：読書活動推進補助教員の活用	補助教員：読書活動推進補助教員
	<p>「おはなしレストランをひらこう」</p>	
1	・学習の進め方をつかむ。	○自分や友達を選んだ本に興味をもち、進んで読む姿が多く見られた。その際、自分の担当したところや友達の音読を真似しながら、音読している姿も多く見られた。
2	☆本の紹介やブックトーク	○自分や友達を選んだ本のシリーズになっている本にも興味をもって、読む姿が増えた。
3	・いろいろな本を読み、自分が読みたいシリーズを決める。	○補助教員に音読の仕方の指導をしてもらったので、場面に合った音読ができるようになった。また、その後の授業の音読に生かされている。
4	☆本の読み聞かせ	○レストランを開くという目標をもてたので、相手意識をもちながら練習することができた。
5	・興味をもったシリーズごとにわかれ、どの本を読むのかを決定する。	○たくさん練習したことで、自信をもって発表することができた。
6	・読みたい場所（ページ）を決める。	
7	☆読む場所選定のアドバイスを受ける。	●●全員が違う場面を音読しているので、個々への細かい指導の時間の取り方が工夫できるとよかった。
8	・お話の場所に合った読み方を工夫しながら、音読の練習をする。	●グループごとに発表する場所を隔離させるために、1つの教室に壁を作り2つのグループが同時に展開できようにしたが、グループ数と同じ数の教室が確保できるとよかった。
9	・あらすじや好きな理由などをワークシートに書き、発表原稿をまとめる。	
10	・メニューや看板を書く。	
11	・レストランを開いてお客様に本のごちそうをする。	
	☆本の読み聞かせ	
	・異なるレストランに行く。	
	・お互いの良いところを評価し合う。	

学習の足跡

1年1組

単元名 お話レストランをひらこう
学習材 「としょかんへいこう」

補助教員による読み聞かせ

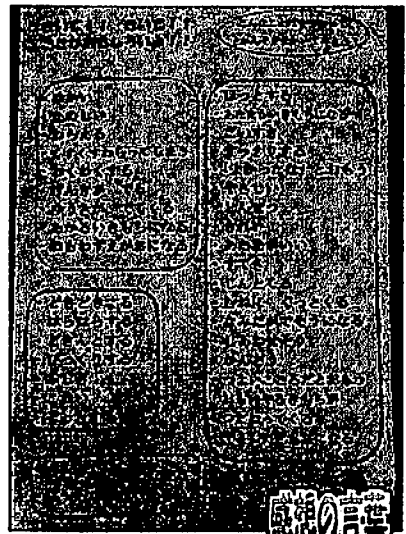
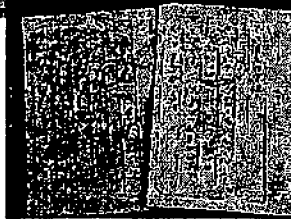


「感想の言葉」を参考に、
読んだ本の感想を書きました。
その後、お話レストランに出す本を選書しました。

本の展示



感想

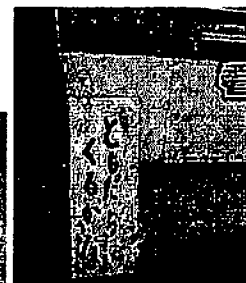


感想の言葉

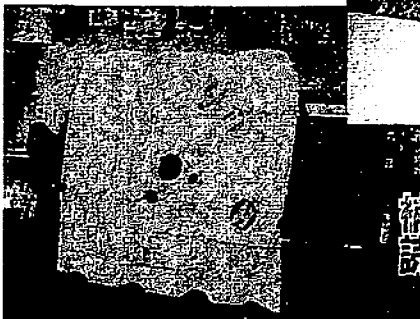
メニュー



お話レストラン開店



看板



補助教員による
読み聞かせ



図書館活用の実践

大山口小学校 2年 加藤 智博

教科 (国)・算・社・理・生・図・音・体・家・学・道・総・特活・生活単元

単元名 みんなで はっけん! 「生き物紙芝居」でつたえよう
 学習材 「さけが大きくなるまで」「生きもののことを説明しよう」

つきたいか

○時間的な順序や事柄の順序などを考えながら
 絵や写真を使って説明する力。

学習活動の工夫

- 事柄の順序にそって、簡単な構成を考えて書く。
- 生き物の成長について時や場所、様子の移り変わりを考えながら読む。



子どもと本との関わり

- 事前学習前半に、補助教員によるブックトークや読み聞かせをする。
- 視点を明確にして、自ら本を手にとれるようにする。

<本時の展開>

☆：読書活動推進補助教員の活用

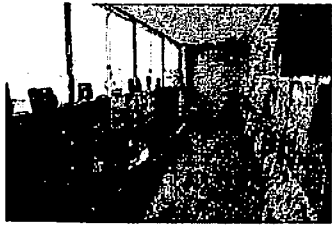
補助教員：読書活動推進補助教員

指導計画	指 導	成 果
1	みんなで はっけん! 「生き物紙芝居」でつたえよう ☆生き物の本の読み聞かせをする。	○前期の「すみれとあり」に引き続き、生きものの○○について説明をさせるという単元構成にしたことで、子供たちは違和感なく学習に入っていくことができた。
2	・学習のすすめ方をつかむ。 ・文章の姿をとらえ、時間、場所、様子を読み取る。	○紙芝居で必要なキーワードを探すための「文章の姿」にしたことで、子供は時系列に沿って、生き物の成長を追うことができた。
3	☆生き物紙芝居づくりに使う本を探す。 (図書室)	○選書した本を使って補助教員が授業に参加したことで、子供たちの学習の視点が明確になった。
4	・本文から成長の様子や生き物のすごさを読み取り、学習シートにまとめる。	●図書館で生きものの本を探す学習をしたが、導入のすぐ後でもよかった。
5	・すごさが分かる言葉を見つける。	●紙芝居を作るためのキーワードの見つけ方とともに、教師が図書に目を通してキーワードを把握しておく必要がある。
6	・順序よく挿絵やキーワードを使い、さけのすごさを伝え合う。	●補助教員が導入でどこまで生き物のすごさについて紹介するかを話し合う必要がある。行き過ぎると、子供は紹介した本にしか行かなくなる。
7	・自分が紙芝居で伝えたい生き物のすごさを成長の順に並べる。	
10~12	・自分の選んだ本で、「生き物紙芝居」を作る。	
13	・交流を通し、生き物のすごさと成長の順序について知る。	
14	・単元のまとめをする。	
15		

学習の足跡

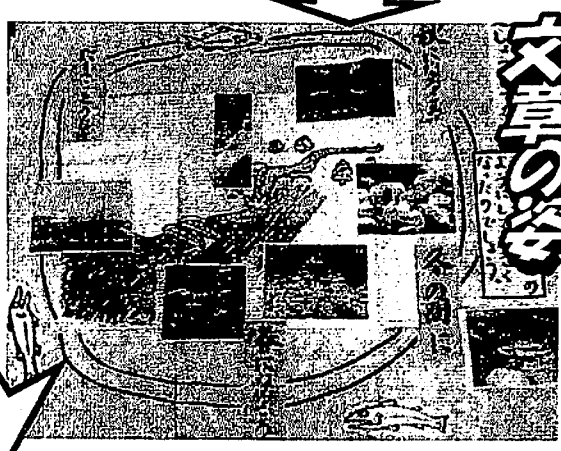
2年4組

単元名 みんなで はっけん! 「生き物紙芝居」でつたえよう
 学習材 「さけが大きくなるまで」「生きもののすごさを説明しよう」!



・時間を短くし、ようすをあらわす図表を見つければよい。
 ・「さけが大きくなるようすや、さけのすごさを見つけよう」
 ・(マイブツと見くらべよう)
 ・絵やキーワードをつかいて、さけのすごさをつたえよう。
 ・紙しばいでつたえたい生き物のすごさを見つけてよう。
 ・えらんだまで、「生き物の紙しばい」を作ろう。
 ・作った紙しばいでつたえ合おう。(グループ)

学習の様子



文章の姿

紙芝居の原稿

ふじにいさの
 年も四年も海を
 ます。
 ずいてた
 をうしんさ
 からまの
 にもたへす
 たどって帰
 す。
 またこの紙



学習の成果物

☆「さけが大きくなるまで」で学んだ「時間」「場所」「生きもののすごさ」に着目し、色々な生き物の紙芝居を作りました。

図書館活用の実践

大山口小学校 3年 小谷 裕之

教科：(国)・算・社・理・生・図・音・体・家・外・道・総・特活・生活単元

単元名 「音楽げき」を開こう！
～ようこそ、斎藤隆介の世界へ～
学習材 「モチモチの木」

つきたい力

内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読で表現する力

学習活動の工夫

- 全校児童に向けての「音楽劇」を学習のゴールとし、音楽科とのクロスカリキュラムで、学習を進めていく。
- 場面ごとに、登場人物の会話や行動から、性格や気持ちの変化、情景を想像し、音読に生かすようにさせる。



子どもと本との関わり

- 斎藤隆介の作品の本を集め、教室全体を「斎藤隆介の世界」にする。
- 補助教員から、本の読み聞かせや紹介、場面の様子がよく伝わる音読の仕方について教わるなどの活動を行う。

<本時の展開>

☆：読書活動推進補助教員の活用

補助教員：読書活動推進補助教員

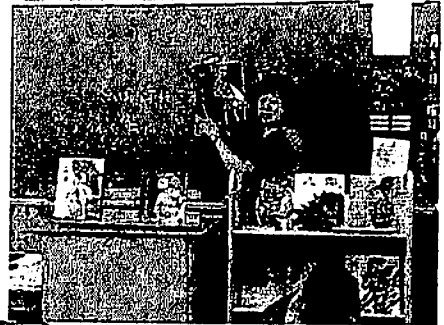
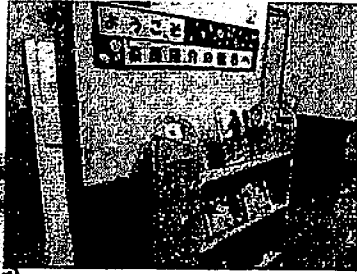
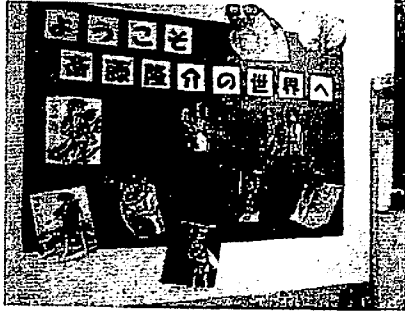
指導計画	1	「音楽げき」を開こう！ ～ようこそ、斎藤隆介の世界へ～	成果 ○	○ゴールを明確にしたことで、必要感をもって意欲的に学習を進めることができた。
	2	・学習の見通しをもつ。 ☆斎藤隆介の本の読み聞かせ・紹介 滝平二郎の切り絵の世界を体験する		○音楽科との合科で音読を行うことで、いろいろな方法で本を楽しむことができた。
	3	・文章の姿をつかむ。 ・会話や行動を通して、豆太の気持ちの移り変わりを考え、音読する。	課題 ●	○たくさんの本を用意したことで、「斎藤隆介の世界」にどっぷりつかり、読書を楽しむことができた。
	10	☆場面の様子がよく伝わる音読の指導 豆太の気持ちや情景にあわせて歌を歌う。		○単元の導入時に、補助教員による本の読み聞かせや切り絵を用いたしおり作りを行ったので、児童の興味が高まった。
	11	・音楽物語「モチモチの木」の練習をする。		○補助教員から音読の仕方を随時教わることで、どのように読めば登場人物の気持ちや場面の様子がよく伝わるか考えながら学習を進めることができた。
	12	☆場面の様子がよく伝わる音読の指導		●補助教員や音楽専科との連絡や打ち合わせの時間の確保が難しい。
	13	・音楽劇発表をする。		●単元の導入時に、補助教員や担任が演示をして、児童にゴールの姿をイメージできるようにする必要がある。
	14	・発表会の振り返りをする。		
	15	・斎藤隆介の本についての「おすすめ図書カード」を作って、紹介し合う。		
	17			

学習の足跡

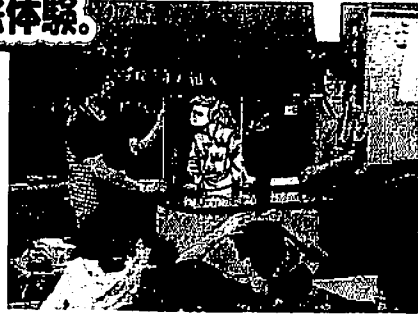
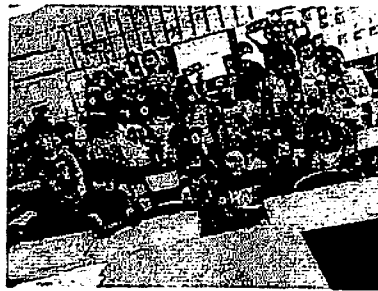
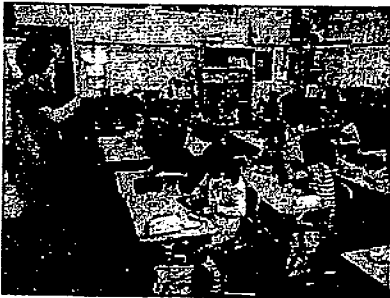
3年1組

単元名 「音楽げき」を開こう！
～ようこそ、斎藤隆介の世界へ～
学習材 「モチモチの木」

本の展示



補助教員による
読み聞かせや切り絵体験。



台本をつくらせ、自分のセリフに読み方を書き込みます。



音楽劇発表会



図書館活用の実践

大山口小学校 4年 柏谷 俊光

教科：(国)・算・社・理・生・図・音・体・家・外・道・総・特活・生活単元

単元名 命をつなぐ取り組みを紹介しよう！
学習材 「ウミガメの命をつなぐ」

つきたいわ

○文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり、興味をもったところにそって要約したりすることができる力。

学習活動の工夫

○生きものの生態を明らかにし、保護しようとする取り組みを要約して、リーフレットにまとめるようにする。



子どもと本との関わり

○生きものの保護について書いてある本を集め、学年の廊下に「命をつなぐコーナー」を開設する。
○単元の冒頭で補助教員の読み聞かせをすることで、生きものの保護について書いてある本に関心をもたせる。

<本時の展開>

☆：読書活動推進補助教員の活用

補助教員：読書活動推進補助教員

指導計画	指	導	計	画	成	果	と	課	題
1									
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									

命をつなぐ取り組みを紹介しよう！

- ・学習の進め方をつかむ。
- ☆絶滅危惧種に関する本の読み聞かせ。
- ・教材文から文章の姿を作り、文章の構成を捉える。
- ・ウミガメの生態や現状、名古屋港水族館の取り組みについて要約する。
- ・タグをつけた放流実験や送信機をつけた放流実験について要約する。
- ・水族館の役割を要約してまとめ、自分の意見を書く。
- ⑧ 動物の保護活動等に関する図書から、紹介するために必要な文章を要約し、リーフレットにまとめる。
- ☆リーフレットの書き方を紹介する。
- ・友だちと読み合い、推敲したり評価したりする。
- ・リーフレットを発表する。

- 教材文でウミガメについてのリーフレットを作ったことによって、自分で選択した動物についてもどのようにリーフレットに文章を要約したらよいか理解できた。
- 補助教員からリーフレットの書き方について説明してもらい、要約文や文末表現、最後の自分の意見の書き方等を教えてもらったことによって十分理解できた。
- 事前に選書した本を読み、動物の保護活動の取り組みを書いているページに付箋を貼ることにより、リーフレットを書く際に見つけやすかった。
- 教師が選書した動物から児童が選ぶ際に、用意した本の冊数や本の読みやすさによって、児童に合った本を提供することが難しかった。
- 選書した本によって取り組みが2個や4個あるものがあつたため、リーフレットにまとめる際に上手にまとめることが難しかった。

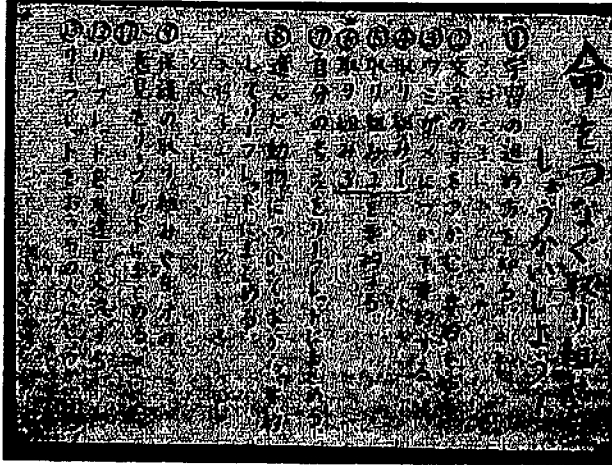
学習の足跡

4年1組

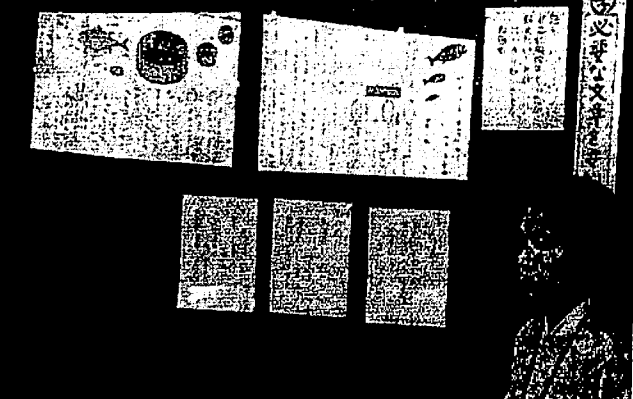
単元名 命をつなぐ取り組みを紹介しよう！
 学習材 「ウミガメの命をつなぐ」



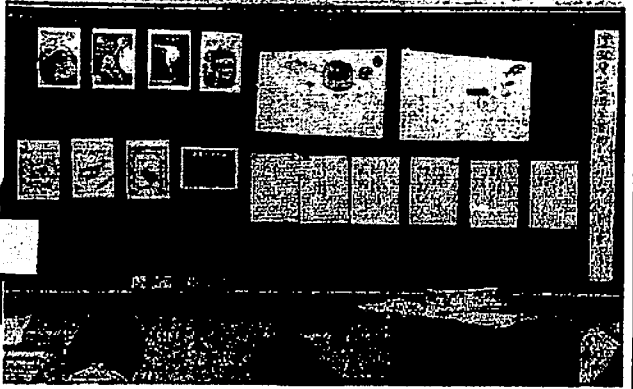
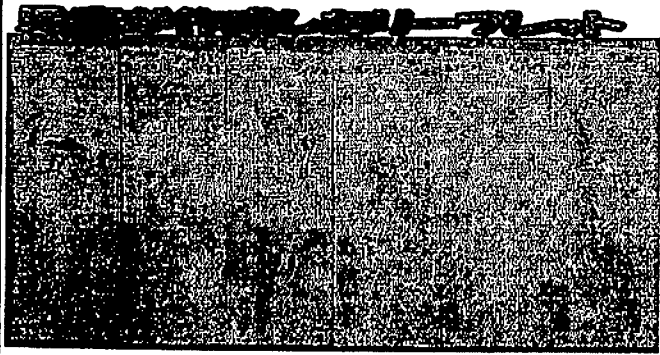
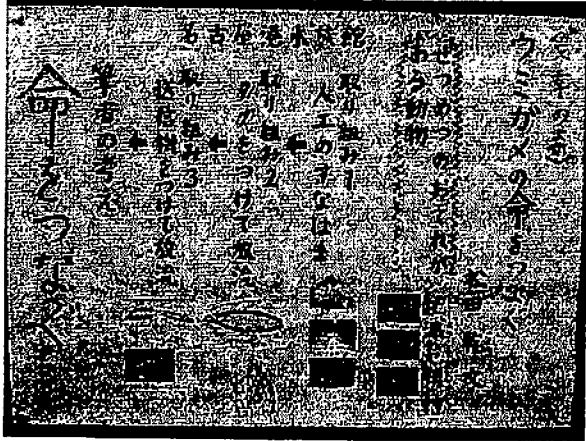
学習の準備



補助教員の木村先生から 「フレンド」について教えてもらった。



「ウミガメの命をつなぐ」文章の読



図書館活用の実践

大山口小学校 5年 井上 明人

教科：(国)・算・社・理・生・図・音・体・家・外・総・特活・道・生活単元

単元名 宮沢賢治の世界を味わおう
 学習材 「雪わたり」「図書すいせん会」を開こう

つたいか

宮沢賢治作品の特徴や作者独特の世界観を楽しむ

学習活動の工夫

- 補助教員による本の紹介を行うことで、宮沢賢治の作品に興味を持てるようにする。
- 音読劇を学習の目標として設定することで、宮沢賢治の表現の特徴に目を向けさせる。



子どもと本との関わり

- 補助教員による本の紹介を行うことで、宮沢賢治の作品に興味を持てるようにする。
- 学年の廊下に「宮沢賢治ワールド」を開設する。
- 並行読書で宮沢賢治作品の、動物と人との交流、リズムカルな表現、情景描写、オノマトペなどを味わう。

<本時の展開>

☆：読書活動推進補助教員の活用

補助教員：読書活動推進補助教員

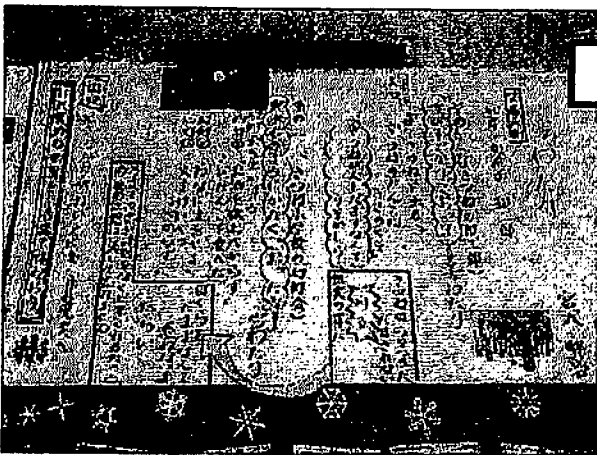
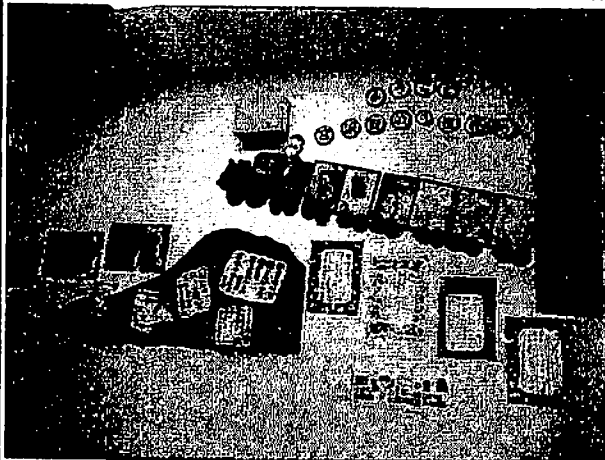
指導計画	宮沢賢治の世界を味わおう	成果と課題
1	・ブックトークで宮沢賢治作品を知る。	○補助教員のブックトークにより、本への関心が高まった。音読や本の紹介の仕方のモデルとなっていたが、とても参考になった。 ○廊下や階段の読書コーナーにより、本の世界への関心が高まった。 ○前期の「大造じいさんとがん」と同じように、ブックトーク、並行読書、リテラチャーサークルと新聞作りという単元構成にした。学習の進め方に慣れていたため、児童は見通しをもって学習に取り組めた。 ●市の図書館や他校からも本を取り寄せていたが、それでも十分な冊数が用意できなかった。児童の意欲に応える準備をしたい。 ●児童に読み味わわせたい表現や本の世界を十分に検討し、選書をする必要がある。
2	☆補助教員による宮沢賢治の本の紹介を入れ、作品への関心を高める。	
3	・文章の姿をとらえる。	
4	・四郎・かん子と紺三郎が打ち解けていく様子を音読を通してとらえる。	
5	・幻灯会を通して、きつねと心を通わせていく様子を音読を通してとらえる。	
6	・どの部分をどのように音読するか話し合う。	
7	・グループで工夫し音読劇を練習する。	
8	・クラス内で音読劇を発表し合う。	
9	・宮沢賢治の本の紹介を行う方法について知り、新聞を作る。	
10	・新聞をもとに、宮沢賢治の作品を紹介し合う。☆補助教員によるアドバイス	
11	・前時の活動を振り返りながら、新聞を完成させる。	

学習の足跡

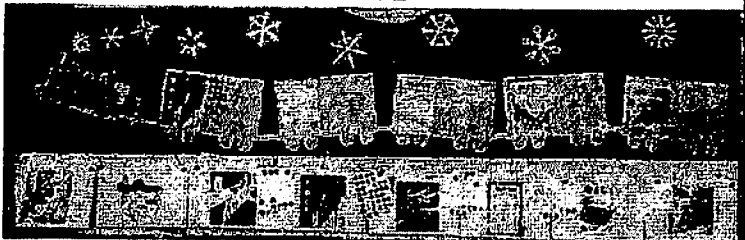
5年1組

単元名 宮沢賢治の世界を味わおう
学習材 「雪わたり」 「図書すいせん会をひらこう」

ブックトーク



並行読書を啓発するコーナー



宮沢賢治の世界を知るとともに、
音読のモデルに
なっていました。



文章の姿

音読劇「雪わたり」

☆ブックトークにより、宮沢賢治作品、雪わたりへの関心を高めました。並行読書で宮沢賢治作品を深く味わいながら、情景描写やオノマトペから感じたことを表現することに重点を置き、音読劇をしました。

図書館活用の実践

大山口小学校 6年 奥山 和美

教科：(国)算・社・理・生・図・音・体・家・外・道・織・特活・生活単元

単元名 本との出会いを、求めて ～私のイチオシの本～
 学習材 「きつねの窓」「私の大切な一冊」

つたいか

自分が読んだ本を紹介し合い、互いに感想を交流して
 読書の幅を広げる力

学習活動の工夫

- リテラチャーサークルを行って本の紹介をすることで、ファンタジー作品への興味関心を高める。
- ファンタジー作品を使っての読書会を行うことで、読書への関心を高める。



子どもと本との関わり

- リテラチャーサークルで役割を決めて読むことによって、本を通して交流する楽しみを知る。
- グループで読書会をすることで、様々な読み取り方があることを知り、さらに本と深く関わりをもとうとする。

<本時の展開>

☆：読書活動推進補助教員の活用

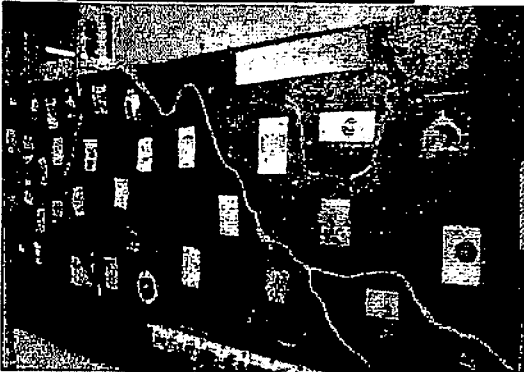
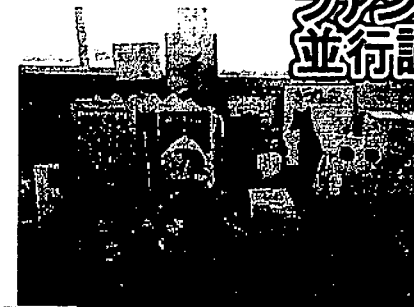
補助教員：読書活動推進補助教員

指 導 計 画	1	本との出会いを求めて ～私のイチオシの本～ ・2月に「私のイチオシの本」を紹介することを 知る。	成 果	○リテラチャーサークルの進め方を知るために、 2名の補助教員と担任による話し合いの仕方の 模範演示を見ることで、具体的にイメージさせ ることができた。
	2	☆補助教員によるファンタジー作品の ブックトーク	と	○ファンタジー作品に興味をもち、今まで読んだ ことのない児童が手を伸ばすなど、選書の幅が 広がった。
	3・4	・安房直子作品を使ってリテラチャー サークルの進め方を知る。 ☆以後、補助教員がグループの話し合い に参加する。	課 題	○自分の役割をもとに話題を考えてリテラチャー サークルに臨んでいるので、グループでの話し 合いが活発になり、本を通して交流する楽しみ を味わうことができた。
	5	・「きつねの窓」の学習計画を立てる。	●	●リテラチャーサークルの具体的な方法や話し合 いの良さがわかるまでに時間がかかるので、教 材文を読み進める段階で、どのような支援や言 葉かけが有効かを研修するべき。
	6・7	・「きつねの窓」をリテラチャーサーク ルによって読み進める。		●市内小中学校からも本を借りてきていただ いたが、それでも本が足りないことが多く、学級 数が多い場合は、指導計画を学級毎に変更する べきだったかもしれない。
	8・9	(ファンタジー 作品を並行読書する。)		
	10～	・同じ本を選んだ人でグループを作り、 リテラチャーサークルによって読み 進める。		
	12	・第4回リテラチャーサークルの後、 グループで作品のテーマについて話 し合う。		
	(13)			

学習の足跡

6年1組

単元名 本との出会いを、求めて ～私のイチオシの本～
学習材 「きつねの窓」「私の大切な一冊」



図書館活用の実践

大山口小学校 6年 照井 砂織

教科：(国)算・社・理・生・図・音・体・家・外・道・総・特活・生活単元

単元名 本との出会いを、求めて ～私のイチオシの本～
 学習材 「伊能忠敬」「私の大切な一冊」

つきたい力

自分が読んだ本を紹介し合い、互いに感想を交流して
 読書の幅を広げる力

学習活動の工夫

- 座談会とビブリオバトルを行って本の紹介をすることで、伝記への興味関心を高める。
- 本を読んで、物の考え方や人物の生き方を知り、それぞれどう思ったか交流し合う。



子どもと本との関わり

- 「ここがすごい。」というところを見つけながら、伝記を読む。
- ビブリオバトルのルールの方法を知り、聞いている人が読みたくなる本の紹介の仕方を考える。

<本時の展開>

☆：読書活動推進補助教員の活用

補助教員：読書活動推進補助教員

指導計画	内容	成果と課題
1	<p>本との出会いを求めて ～私のイチオシの本～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月に「私のイチオシの本」を紹介することを知らせる。 	○ビブリオバトルをグループで行ったことで、話し合い(本の内容の読み)の力や、プレゼン力が向上した。
2	<p>☆補助教員によるビブリオバトルのガイダンス</p>	○伝記を読むことへの抵抗感が少なくなり、偉人の生き方から「あきらめないこと」「人との出会いの大切さ」を学ぶことができた。
3	<p>☆補助教員による伝記のブックトーク</p>	○中学校で指導している補助教員にビブリオバトルについて教えてもらったことで、児童の意欲が向上した。また、担任もビブリオバトルについて詳しく知ることができ、教材研究に大いに役立った。
4~9	<ul style="list-style-type: none"> ・「伊能忠敬」を読んで、伊能忠敬の生き方を考える。(伝記を並行読書する。) 	●伝記をビブリオバトルで扱うことで、評価の観点を「偉人の生き方」か「本そのもの」にするのか迷った。内容を全部話してしまうと、本の魅力(読みたい気持ち)が減少するので、プレゼンの仕方を考えるのが難しかった。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ本を選んだ人でグループを作り、その偉人の生き方について座談会をする。 	●調べ学習の発表にならないように、プレゼンの仕方を事前によく指導する必要がある。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ本を選んだ人でグループを作り、その偉人の生き方について座談会をする。 	
12~15	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルの準備をグループで行う。 	
16	<p>☆本の紹介の仕方を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ対抗ビブリオバトル予選会をする。 ・ビブリオバトル本選をしてチャンプ本を決める。 	
17		

学習の足跡

6年2組

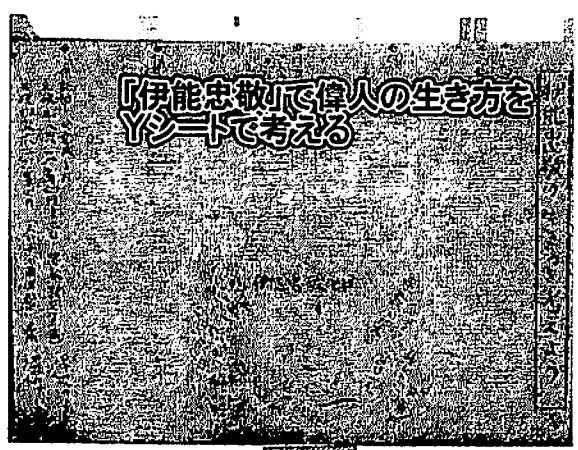
単元名 本との出会いを、求めて ～私のイチオシの本～
 学習材 「伊能忠敬」「私の大切な一冊」



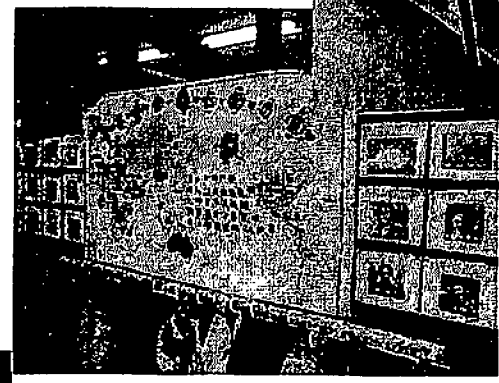
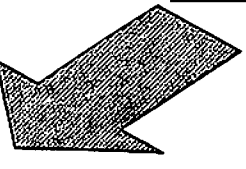
補助教員による
ビブリアバトルガイダンス



対ミビブリアバトルをやってみました!



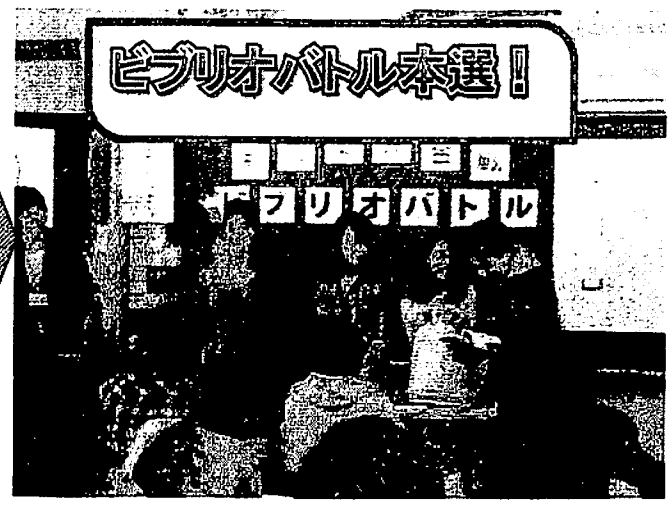
『伊能忠敬』で偉人の生き方を
Yシートで考える



読んだ偉人の
国をチェックし
て、シールを貼
りました。



10冊の伝記とチーム分け
知的書評合戦
ビブリアバトル



ビブリアバトル本選!

3つのグループに分けて予選会を行い、それぞれの
1位になったチームが本選に進みました。

図書館活用の実践

大山口小学校 サポート学級1, 3組 (知的) 高畑 絵美 和地 直子
 教科: 国・算・社・理・生・図・音・体・家・外・道・総・特活 (生活単元)

単元名 「めざせ! ダイズレンジャー」

つたい力

○ダイズの魅力を知り, 興味関心をもって,
 自分たちも育ててみようとする力

学習活動の工夫

- 単元を見通して活動できるよう, 掲示物で示す。
- 関心を高められるように実物を提示する。
- ダイズの替え歌を作って歌い, 雰囲気作りをする。
- ダイズの栽培方法を図書で調べ, 実際に育てる。



子どもと本との関わり

- 補助教員による絵本「ヘルシー戦隊ダイズレンジャー」などの読み聞かせにより, ダイズに興味をもたせる。
- 市図書館より, ダイズの栽培に関わる図書を学級毎に借り, 児童が手軽に手にできるようにする。

<本時の展開>

☆: 読書活動推進補助教員の活用

補助教員: 読書活動推進補助教員

指 導 計 画	1 次 6月	「めざせ! ダイズレンジャー」 ☆絵本「ダイズレンジャー」を読み聞かせ ・単元の見通しをもつ。 ・ダイズについて知る。 ・図書資料を活用してダイズの育て方を調べる。 ・ダイズの種まきをする。(継続的栽培活動) 《水やり・定植・草取り・収穫》	成 果	○昨年度からの劇の発表だったので, 子供たちは見通しをもって活動に取り組むことができた。
	2 次 11月 本時	☆紙芝居「へんしん大豆」読み聞かせ ・「ヘルシー戦隊ダイズレンジャー」の劇について話し合う。 ・劇の練習や準備をする。 配役決め・大道具・小道具作り・歌練習・通し稽古 ・劇の発表をする。(合同学習会・授業参観)		○活動に慣れてきたところで, 自分も目標を立てられるようになった。 ○絵本を題材にしたことで, 楽しく活動することができた。 ○図書室の割り当てにより, 図書への関心が高まった。
	3 次 11月	・ダイズを使った調理活動をする。 (炒り豆・豆腐と油揚げの味噌汁) ・豆まきをする。 ☆絵本「おにはうち ふくはそと」読み聞かせ		○補助教員による本や紙芝居の読み聞かせにより, 子供たちが意欲的に学習に入っていくことができた。 ○補助教員により, 関連図書やBGMなどを紹介していただき教材の幅が広がった。 ○栽培活動と表現活動を並行で行うことで意識を高めることができた。 ●大豆の栽培活動は今年初めてだったので, 来年はもっと充実させたい。 ●今後は振り返りに時間をかけたい。

図書館活用の実践

大山口小学校 サポート学級2組(自・情) 渡邊 成子

教科：国・算・社・理・生・図・音・体・家・外・道・総・特活 (生活単元)

単元名 「めざせ!ダイズレンジャー」

つきたい力

○ダイズの魅力を知り、興味関心をもって、
自分たちも育ててみようとする力

学習活動の工夫

- 単元を見通して活動できるよう、掲示物で示す。
- 関心を高められるように実物を提示する。
- ダイズの替え歌を作って歌い、雰囲気作りをする。
- ダイズの栽培方法を図書で調べ、実際に育てる。



子どもと本との関わり

- 補助教員による絵本「ヘルシー戦隊ダイズレンジャー」などの読み聞かせにより、ダイズに興味をもたせる。
- 市図書館より、ダイズの栽培に関わる図書を学級毎に借り、児童が手軽に手にできるようにする。

<本時の展開>

☆：読書活動推進補助教員の活用

補助教員：読書活動推進補助教員

指 導 計 画	1 次 6月	「めざせ!ダイズレンジャー」 ☆絵本「ダイズレンジャー」を読み聞かせ ・単元の見通しをもつ。 ・ダイズについて知る。 ・図書資料を活用してダイズの育て方を調べる。 ・ダイズの種まきをする。(継続的栽培活動) 《水やり・定植・草取り・収穫》	成 果 と 課 題	○昨年度からの劇の発表だったので、子供たちは見通しをもって活動に取り組むことができた。
	2 次 11月 本時	☆紙芝居「へんしん大豆」読み聞かせ ・「ヘルシー戦隊ダイズレンジャー」の劇について話し合う。 ・劇の練習や準備をする。 配役決め・大道具・小道具作り・歌練習・通し稽古 ・劇の発表をする。(合同学習会・授業参観)		○絵本「ヘルシー戦隊ダイズレンジャー」の世界観を楽しみながら役を演じることができた。
	3 次 11月	・ダイズを使った調理活動をする。 (炒り豆・豆腐と油揚げの味噌汁) ・豆まきをする。 ☆絵本「おにはうち ふくはそと」読み聞かせ		○ダイズに関する本を読むきっかけとなった。
				○図書室の割り当てにより、図書への関心が高まった。
				○補助教員による本や紙芝居の読み聞かせにより、子供たちが意欲的に学習に入っていくことができた。
				○補助教員により、関連図書やBGMなどを紹介していただき教材の幅が広がった。
				○栽培活動と表現活動を並行で行うことで意識を高めることができた。
				●ダイズの成長や育て方など、詳しく調べる学習までは広げることができなかった。
				●大豆の栽培活動は今年初めてだったので、来年はもっと充実させたい。
				●今後は振り返りに時間をかけたい。

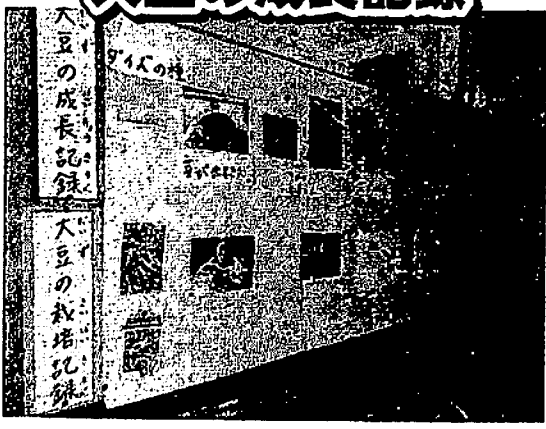
学習の足跡

サポート学級

単元名 「めざせ！ダイズレンジャー」



大豆の成長記録



関連図書の展示



補助教員さんによる読み聞かせ！



劇遊びへの意欲が高まりました。


自分で目標を立てた!!

自分の目標を立てよう
 <しりとり>
 声の大きさを調節する
 口を大きくあけよう
 よろこびをいふ
 カンザシのしりとりが
 うたにしよう
 大さくのもつりあひ
 劇をかんがえよう
 <しりとり時間>
 しりとり
 しりとり



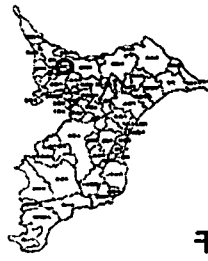

日	月	内容	備考
1/2	1	① 声の大きさ	10分
1/2	2	② 口の大きさ	10分
1/2	3	③ よろこび	10分
1/2	4	④ カンザシ	10分
1/2	5	⑤ うた	10分
1/2	6	⑥ 大さく	10分
1/2	7	⑦ 劇	10分
1/2	8	⑧ しりとり	10分

楽しく学び、心を耕す授業を目指して
 ~子どもと本をつなぐ授業づくり~



白井市立大山口小学校

白井市

千葉県


小学校 9校
 (4,311人)
 中学校 5校
 (1,903人)

学校教育目標とめざす子ども像

学校教育目標
 自ら学び、豊かな心をもち、
 たくましく生きる子どもの育成

めざす子ども像

一人で楽しんで読む子



めざす子ども像にせまるために

一人で楽しんで読む子

視点① 子どもと授業をつなぐ
 ~本と関わる授業~

視点② 子どもと学校図書館をつなぐ
 ~学校図書館を身近に~

視点③ 子どもと人をつなぐ
 ~学習も楽しんだらいい~

視点① 子どもと授業をつなぐ ~本と関わる授業~

2年生
 みんなでぼっけん!
 『空を飛ぶ子』でつたえよう
 写真 『ふみねとふり』



6年生
 大小船プロジェクト
 ~しんがすのめり00と伝説~
 写真 『伝説のはたけと伝説』



視点① 子どもと授業をつなぐ ~受信を発信に~

3年生
 『伝説』を聞こう!
 ~ようこそ、百鬼夜行の世界へ~
 写真 『ヒメアザヒの味』



5年生
 空の国をめぐろう
 写真 『伝説の味』

